



いなざわ九条の会

■2010年 2月・月例会(第24回)のご案内■

講演 「世界を見て知る～生命を尊重する社会」

伊藤千尋さん

<朝日新聞記者>

日時

2月11日 (木・祝)

開場 午前9時30分 開演 午前10時00分

場所

アイプラザー宮 大ホール



※「第21回健友ネット集会」の講演に参加します。

参加費
無料

第21回健友ネット集会
気づく みつめる いのち・暮らし
Yes! Peace! 広げよう平和への思い

伊藤千尋氏による講演「世界を見て知る～生命を尊重する社会」

2010年 2月 11日 (祝)
9時30分 開場 10時00分 開演
アイプラザー宮 大ホール 千代田線よりシャトルバス運行
入場無料

主催 健友ネット集会実行委員会 協力 尾張地域の「九条の会」(2007年設立)

伊藤千尋(いとう・ちひろ) 朝日新聞記者/ジャーナリスト
1949年山口県生まれ。東大法学部を卒業後、朝日新聞社に入社。

その後「NGO・国際協力チーム」メンバーなどを務め、現在、「be」編集部にも所属。これまで世界68ヶ国を現地取材し、そこに生きる人びとの姿を伝えてきた。

現在「コスタリカ平和の会」共同代表を務め、「シネ・フロント」などの雑誌に精力的に執筆している。

「9・11」を体験した記者が語る「世界と憲法」「活憲の時代—世界からみた憲法」などをテーマに講演。憲法を活かす＝「活憲(かっけん)」を熱く呼びかけ、世界各地を現地取材してきた体験からの話が新鮮な感動をよんでいる。

■ 3月・月例会(第25回)の予定 ■

映画視聴

本作の監督・坂田雅子さんが、フォト・ジャーナリストだった夫のグレッグ・デービスを肝臓がんで亡くしたのは、2003年。彼が入院してわずか2週間後のことだった。夫・グレッグは米軍兵士として10代でベトナム戦争に送られた過去を持つ。……

ドキュメンタリー映画 坂田雅子監督作品

「花はどこへいった」

—ベトナム戦争のことを知っていますか—

日時

3月20日 (土)

午後 2時00分～4時00分

場所

未定

参加費 300円

「勇気を得た」

沖繩
辺野古

基地阻止の闘い

映画「マリーンズ・ゴー・ホーム」に16人

2010年いなざわ九条の会1月例会「マリーンズ・ゴー・ホーム2008年版」の上映会は1月23日、市民会館視聴覚室で開き、16人が観賞しました。

映画は「海兵隊よ、米国へ帰れ」と、闘い続ける沖縄、韓国、北海道の住民の暮らしとそのエネルギーを映像化しました。

奇しくも翌日の24日は、沖縄・普天間米軍基地の移設先とされた辺野古の名護市で、「県外移設」を公約に掲げた新人市長が当選しました。基地撤去の闘いの高揚を象徴するできごとでした。

映画は、韓国の梅香里で20年闘って米軍射撃場を撤去さ

せた運動や、新基地建設のボーリング調査に体を張って抵抗する辺野古の人たち、そして、矢臼別で「自衛隊は憲法違反」と屋根に大書きして、40年間抵抗を続ける農民らの姿を描いています。

かれらは、こういった基地からかつてはベトナムへ、いまはイラクやzzzアフガンへ、海兵隊が殴りこみをかけ罪のない子どもたちを追い詰めていることに心を痛めています。「私たちは基地の被害者だけでなく、戦争に協力する加害者になりたくないのだ」と話す住民の姿は、会で頑張るわたしたちの思いと同じではないでしょうか。

以下は、アンケートに協力していただいた人たちの感想

闘う人たちを支えねばと、痛感

(女性)

74歳 体を張って基地反対を闘っている人たちに、改めて私もこれからも平和を守ることの重大さを感じました。

66歳 もし自分の住んでいるところが、映画の中のような環境だったとしたら、あの過酷な状況に自分は立ち向かえるだろうか。よほどの信念が必要だと思い、「えらいなあ」と感心した。

62歳 分かっているようで、分かっていないことが多いと再認識。どこか「他人事」にしていたと強く反省。現在の世情の大変さにとりまぎれ、言葉では「平和」と言っているけれど、映画を見て「戦争」に知らず知らず加担している現実を思い、今、最前線で闘っている人たちを支えていくことを頑張らねばと思いました。

重い、「加害者になりたくない」の思い

(男性)

86歳 沖縄の人が基地反対にひとりひとり丸となっていることがよく分かり、われわれ(沖縄県民以外)は、無関心でいられないとつくづく思った。なにか運動していく必要がある。辺野古の人が命がけで基地作り、ボーリングに反対していた姿に感銘した。

63歳 現地の人や他の支援の人が、あんなに頑張っただけで基地建設反対の闘いをしていることを知らなかった。どんなに活動する人が少なくなっても、回りの情勢が変わるまで闘うという発言には感動した。

61歳 自然を守り、平和を守る辺野古の仮やぐらの攻防は想像を絶する。自分にできることは限られている。だが、勇気ある闘い。何回も上映しなきゃ。多くの人に見せにゃ。

66歳 「平和を育てる」いい言葉です。平和、草の根の戦い、地底からの闘い、そうした闘いの中で育てられている。今後の闘いも最も大切。命ある限り、平和、戦争のない世界、核のない世界のために取り組んでいきたい。

63歳 辺野古には3、4回行っているが、映画のような基地を造らせないようなことは知らなかった。(海でのカヌーと潜水阻止の行動)

68歳 矢臼別の映像をはじめてみて、印象が深まった。韓国では米軍を追い出したのか。すごい。辺野古には5、6年前に行ったことがある。2、3時間座り込んできた。文字通り、体を張って阻止してるのがすごかった。「加害者になりたくない」という言葉に感動した。憲法を生かしている。(画面が横に伸びて非常に見苦しかった。どうして直さないのか)